

上下顎の偏位と硬軟組織形態

・はじめに

歯科矯正治療は上下の顎骨と歯および外部の軟組織を対象としており、それらは側面では水平・垂直方向に偏位して配置しています。臨床においては上下の顎関係が平均的な形態から離れている症例を治療することも多いです。患者さんの状態を説明するために撮影する頭部規格レントゲン写真は重要な診査手段の一つです。このレントゲン写真分析の目的は第一に正常型と比較することですが、分析結果を患者さんに説明する場合、数値を用いるより顔面頭蓋をその外形線で描いた標準図形を用いた方が患者さん自身の顔面頭蓋型と正常型とを視覚的に比較できるため誰でも親しみやすいといえます。しかし従来の図形は平均型だけであり数値分析で示される基準範囲の図形は不明でした。そこで今回、頭部レントゲン規格写真より上下顎の前後および垂直方向への偏位を対象に基準範囲（平均±標準偏差）の側貌を知るための視覚的図形を作成することを計画しました。

図形分析と数値分析の併用は患者さんへの理解を深めるだけでなく、術者にとっても顎顔面形態を把握することに役立つと考えられます。

・対象

1986年7月24日から2009年4月6日までに、九州大学病院矯正歯科に来院され、側面頭部エックス線規格写真を撮影された患者さんの御両親のなかより、個性正常咬合を有すると判断された、日本人成人女性（30歳から50歳）50名程度と、九州大学病院で研修を行っていた歯科衛生士実習生で、当教室にて行っておりました筋ジストロフィー患者さんの研究の一環として、当教室において1990年4月1日から1991年3月31日までに側面頭部エックス線規格写真を撮影された個性正常咬合を有する日本人成人女性ボランティア（20歳から21歳）10名程度の側面頭部エックス線規格写真画像を対象とさせていただきます。

対象となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

・研究内容

側面頭部エックス線規格写真画像を使って、上下の顎と歯および軟組織形態、それらの相互関係について調べ、視覚的に把握しやすい基準範囲の側貌図形を作成します。

・個人情報の管理について

個人情報
個人情報は匿名化し、本研究の実施過程およびその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

- 研究期間

研究を行う期間は承認日より平成 28 年 3 月 31 日まで

- 医学上の貢献

歯科矯正治療において、審美的、機能的に良好な状態を得るための治療計画を立てることや、長期的な予後の評価を行うための一助となり、多くの患者さんにとって満足となる治療結果を得るために重要であると考えます。

- 研究機関

九州大学院 歯学研究院 歯科矯正学分野

教授 高橋 一郎

九州大学病院 歯病 矯正歯科

講師 五百井 秀樹

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

Tel 092-642-6462

連絡先担当者：五百井 秀樹